

あま市地域懇談会 ワークショップのまとめ

テーマ「あま市の地域福祉の課題」と「課題解決のアイデア」



【Aグループ】

あま市の地域福祉の課題	課題解決のためのアイデア			
	地域住民の取り組み	市役所の取り組み	社協の取り組み	各種団体の取り組み
① コミュニティ ・個人情報の問題がどこまでか、人によって考えが違う ・今の社会は縦のつながりがあっても、横のつながりが無いので難しい ・お互い様が広がるといいなあ ・独居の高齢者のちょっとした手助け ・どんな人でも地域で住んでいるので、あたたく見守ってほしい ・老人に限らず、地域から孤立 ・高齢者の方が集まっても何もすることが無い。呼びかけても、足が痛いとか、用事があるとか、病院に行くとか、難しい ・1人で行動できるような社会となっていて、個人行動を好む人が多い ・平日だけの活動では、働いている人が参	・私達、赤十字奉仕団には、健康及び幼児安全の指導員がみえますので、どちらでも伺いまして、講習をさせていただきます。声を掛けてください ・祭り(子ども達とのふれあい)等のイベントを継続して実施する ・共通の目的を持ったいきいきサロン等を開催する ・誰もが気軽に立ち寄ることができる、居場所づくり(集いの場) ・一緒にご飯を食べる会 ・近所付き合いや、異世代交流が進むイベントの開催 ・若者から高齢者へのポスティングと訪問	・町内会の必要性は非常に高く、市の補助は必須です。市と町内会の情報共有が大事です ・ここに高齢独居の方が居ることを申し送りで知らせてほしい ・水道利用量等で家庭の変化が分かると聞いたことがあります。連携したらどうでしょう ・地域住民主体のコミュニティ活動に対する支援(補助金)と評価 ・地域には色々なサロンや寿会など、高齢者の集う場がありますが、もう少し多く増やしていただきたい。高齢者は話し合いを楽しみにしていますので ・学校と地域が一緒になって「学ぶ」 ・学校での福祉実践教室の活用 ・高齢者の引きこもりをなくすため、地域行事を増やす	・高齢者、介護世帯、子育て世代、障がい者支援の情報蓄積を活かし、コミュニティのネットワークを構築する	・JA等と協同して、地域で収穫した農作物を駅や市役所等、交通の便の良い所で販売する(食に関するイベントは有効) ・字ごとに集会場などがありますが、集まれる事がありましたら、その場所へ伺いまして話し合い又講習等をさせてもらいますので、是非声を掛けて頂きたいと願っています ・空き教室や空き店舗を使って、交流の場をつくる活動(大事ではと思います) ・同じ職種が集まれる場所 ・コミュニティの支え手が減る中で、同様の活動をしている団体の協働化を図る(エリアを広げる等)

あま市の地域福祉の課題	課題解決のためのアイデア			
	地域住民の取組み	市役所の取組み	社協の取組み	各種団体の取組み
加できないので、土日祝日も日を作る				
② 世代交代 ・今、私は年齢も年齢の高齢者ながら農業をしているが、どんな会でも役員の引き受けをする方がいない ・若い人の活躍の場があるが、つながりが無いので交代できない ・町内会に入る人が少ない	・色々な人が集まる場所(機会)をつくって、各世代が参加する ・新しいコミュニティづくり。趣味やスポーツなど共通の目的を持った団体やサークルを立ち上げ、地域活動に係わりを持つ機会をつくる ・ニーズのマッチングをする機会をつくる			・高齢者の働く場の提供 ・「家事」の部分で有償ボランティアの活用
③ 情報提供・相談 ・高齢の方への情報提供の難しさ ・何がしてもらえるのか知らない ・何をしなければいけないのか分からない		・町内会の紹介、町内会と役所の連携 ・公共の場所での情報提供(掲示物等) ・関係機関の連携 ・コミュニティを広げるのにQRコードを色々な所に付けて、若い人にも発信できるようにする ・市のホームページ(広報)で、今日あったQ&Aを紹介する ・コンシェルジュ的な相談窓口があればいい ・あま市のアプリがあればいい ・知ってもらふ場所の共有(どんな人でも)	・地域福祉に対する相談として区別すれば、健康、医療、介護、子育て、障がい者支援等があります。これらを一元的に受け付けるワンストップ窓口を設置して、横のネットワークを広げていく ・基幹相談センターの設置	・民間企業と連携(ポスター等) ・小回りのきく団体等があるといいな
④ 公共交通のサービス ・市内のバスが減少した→利用が不便 ・名鉄七宝駅の北側へ行くのが狭い通りなので、もう少し西側へかえていただけないかと思います		・市バスの時刻表をHPや広報に毎月載せる ・バスは統計を収集して、コースを見直す		
⑤ 子育て支援 ・子どもは親の姿を見て過ごすので、親は子どもの為にしっかりした姿で接し、教育していただきたい ・私達より若い人達のマナーが悪い事に気付く(ある一部の人かと思いますが) ・教育関心レベルが低い ・子育て世代の時間・自由の無さ	・子どもは何でも自分の思い通りにしていいという事が主体性ではありません。思い通りにならなくても、社会では相手に合わせる事が必要になる事があるのです。思いやりや協調性という日本人の美德とされてきた、人と人の和の心をこれから時代を担う子ども達にも大切にしてほしいものです。大人も同じだと思います	・児童扶養手当の手続きの際に母子家庭が集まる会の案内をする ・子ども食堂のホームページ開設		

あま市の地域福祉の課題	課題解決のためのアイデア			
	地域住民の取組み	市役所の取組み	社協の取組み	各種団体の取組み
・ファミサポの活用？ ・子ども食堂って、あま市で開催されてる？ ・母子家庭の方で母子福祉会がある事を知らない家庭がある ・子ども同士、親同士のふれあい活動	・親がしっかりとした教育をすることが必要→横のつながりを持たせるようにする ・何でもすぐ「ダメ」と禁止をしない。言い過ぎない	・学校での教育の充実 ・多様性の教育の充実「みんなちがって、みんないい」 ・情報をつなげる「力」をつけていく		
⑥ 障がい者への理解 ・障がいへの理解 ・見た目では分かりにくい方（障がい）への防災への対応 ・障がいのある方への偏見をなくしてほしい ・精神障がい者の方は地域にたくさんおられると思うが、どうしておられるか…。家族の方は困っておられると思うが、どうしたら知ってもらえるか？ ・居場所を運営しているが、最近2～3年位前から利用者が入って来ない。障がい者を“預かっている”立場の者ですが、利用者の方の家族会を開いても1人も参加しない…なぜか？不思議？	・障がい者への偏見は、人それぞれ偏見を持っている方もいるという認識を持つことが大切だと思う	・精神障がい者のいる家族の方に対して、社協で講演を開いて呼び寄せて社会に出てほしい。知らない人がたくさんみえると思う ・支援する施設があることを、役所が市民とつなげる役割をする	・精神の障がいを持っている方の家族会の開設、自助会の開設 ・社協、障がい相談と居場所を作っている団体との連携 ・社協、障がい相談、若年者に対してSNS相談窓口	
⑦ 防犯 ・防犯に関する活動を特に進めていただきたい ・老人会の交通安全の見守りは助かる	・1人1人が防犯の意識を持つ（近くへ行くにも鍵をする） ・学校の見守りの継続。老人会の方、お願いします	・交通安全教室で子ども達の教育		
⑧ ボランティア活動 ・ボランティア活動が少ない	・ボランティア活動のPRをして、たくさんの人に参加してほしい	・ボランティアの意味説明 ・本来のボランティアの意味を学校が教えてほしい	・ボランティアセンターと学校が連携して情報提供	



【Bグループ】



あま市の地域福祉の課題	課題解決のためのアイデア			
	地域住民の取り組み	市役所の取り組み	社協の取り組み	各種団体の取り組み
① 防災 ・高齢者の方、障がい者の方が、災害時 どう避難するか対策を。災害対策・災害 時の情報がほしい ・避難所の案内板？ ・高齢者への防災・減災のお手伝い情報 ・小学校・中学校における防災教室の実施 →高齢者支援につなげる ・自分の回りに住んでいる人をどのよう に知るか	・本当の避難所にて防災訓練をやる ・近隣住民に高齢者、障がい者の状況調 査が必要。その後の情報発信方法 ・組単位の災害時対応マニュアルの作成	・防災ボックスの説明会 ・発信の仕方を考えてみて、こまめに情 報の発信をする ・案内を大きな字でわかりやすく ・災害が起こる前に高齢者、障がい者 の方の対策を決めておく ・色々な情報を知る事を考えてほしい、 町内の案内板を多くしてほしい ・避難場所を伝える案内板の設置	・サロンにて防災講座をやる	・災害別に避難場所を明示してほしい 一次避難→避難場所
② 交流の場 ・ラジオ体操…もっと呼びかけをし たらいか が で し よ う か ・図書館を増やしてほしい ・もっと公園を作ってほしい ・公園の広さが狭いと思います。ボ ール遊び等ができる広さが必要です ・遊ぶ広場を作ってほしい ・プールが無いので困ります	・高齢者の方と子ども達で交流する機 会を ・子ども達と公園のクリーン活動 ・公園の草取りの簡素化を考えて、住 民主体の運営を	・空き家、空き地を活用できる制度の 新設 ・七宝の図書館の規模を大きくしてく ださい ・図書館のシステムを、例えば稲沢市 方式を導入する ・公園の整備 ・交流の場に行ったときの利点を。場 所をどこに置くかを考える		・アートビレッジの使用
③ 交通手段 ・買い物に行く場所が少ない ・交通(バス)の使い方 ・色々な事に対して助成がない ・病院に行く交通手段をもっと増や してほ し い		・要望通りのコース設定にする以前 に、巡回場所の要望に合わせ、バス 数の設定と可能な計画から進める。 全ての人に満足することは不可能な がら、生活に合ったコースの設定 ・買い物専用バスの見直し ・コミュニティバスよりタクシーの利 用補助制度を開発してほしい。バス では本数を増や		

あま市の地域福祉の課題	課題解決のためのアイデア			
	地域住民の取組み	市役所の取組み	社協の取組み	各種団体の取組み
		しても希望通りにならない ・バスの停留所を増やす ・バスを利用してもらうようにPR。あることを知ってもらう ・バスの本数を多くする(短く) ・個人にアンケートを取る		
④ 見守り ・核家族化が進む現状をなくす活動 ・学童、子ども達の見守り強化 ・各大字において、老人クラブなどでサロン等の集まりなどをすすめていく	・見守りに対する意識強化 ・通学路の子ども 110 番。現在どうなっているか ・お年寄りと子どもの交流する機会を ・自分の家の近くに来た時に気を付けて見る。学校への通学路がわからない	・老人クラブ等で積極的に見守り隊に参加 ・週1回程度、学校で登下校の見守り ・各学校との連絡会を開催する	・サロンでの色々な出前講座の実施	
⑤ 独居老人対策 ・独居老人対策	・家族間の現状と、将来の家系への話し合いを常に持つ ・となりの方から独居の人への電話サービスを増やす	・民生の方がしておられるが、他にないのか考えてほしい	・社協のボランティアから独居の人への電話サービスを増やす ・地域限定にせず、誰でも集えるサロン	
⑥ 相談対策 ・近隣トラブルの相談場所の設置	・回覧板の利用に工夫点を ・地域に関わる機会。子ども会とか、交流の場を	・サロンやコミュニティ活動が地域にできつつあるが、継続的に進めることのできる場所の確保を ・個人同士ではなく、法人へつなげる	・相談窓口を簡単に作る	



【cグループ】



あま市の地域福祉の課題	課題解決のためのアイデア			
	地域住民の取り組み	市役所の取り組み	社協の取り組み	各種団体の取り組み
① 子どもの居場所 ・プール等、公の施設が減っているのでは ・子ども達の遊び場が少ないのではないか ・子ども会入会者が少なくなっている		・公園の遊具を増やして欲しい。危ないからを理由にして撤去しないで… ・公園の管理安全を民間へお願いする(助成)		
② 子ども食堂 ・親と子が安価で利用できる「子ども食堂」	・家庭で余った食材の寄附。畑で採れた野菜も安価で買い取るか寄附を	・商店街で閉まっているお店を借りる(助成金) ・運営は地域ボランティアの方、又は社協・第三者へ委託 ・施設(場所)の選定の支援 ・場所は行政の建物で使用していない施設部屋を提供 ・場所など大きな枠は市役所・社協。実際に動かす人はコーディネイト ・高熱費用等の負担は全部もしくは一部公費で	・子ども食堂で手伝ってくれるボランティアの募集、養成	・運営はボランティア・民間で、場所は行政の建物で使われていない施設・部屋を提供する
③ 子どもの安心安全 ・登下校時の見守りの必要性 ・小学生の登下校の付き添いがほしい(横断歩道のみでなく) ・子どもの安全を考えすぎではないか	・こども 110 番の家をたくさん増やしてもらう ・犬の散歩の際にお願いする ・子ども会の入会者を増やすには、役員など親の負担を減らす	・学校公開の機会を増やし、もっと子どもへの意識を高めてもらう	・付き添ってくれるシルバーボランティアさんをまとめる(有償の検討) ・中・高生のボランティアを積極的に養成する。企画から全部まかせてみる ・ボランティアに積極的に参加する意識向上を図る方法を検討する	・登下校の見守りを、おじいちゃんおばあちゃんに頼む。小学生からお手紙を地域の 65 才以上の方に出す
④ 障がい児・者への理解・支援 ・障がいがある子と健常児の交流の機会が		・分かりにくい軽度発達障がい児の発見？のために5歳頃での健診を増やす	・障がいへの理解を深めるために障がい者の映画等の上映	

あま市の地域福祉の課題	課題解決のためのアイデア			
	地域住民の取り組み	市役所の取り組み	社協の取り組み	各種団体の取り組み
少ないのでは ・障がい児をもつ家庭への支援 ・「障がい者のために」という言葉が障がいのない方たちで話合われている。当事者の意見が聞かれていない			・障がいについて義務教育中に習う	
⑤ 災害時の障がい者への取り組み ・震災時の避難所で障がい児・者の生活はどうか		・一般団体(障がい者・老人福祉団体)への支援の一部負担(建物・食べ物) ・障がい者の情報(何が必要か)を災害前の日頃から集め、避難所に準備しておく ・あま市内の障がい児・者への防災への取り組みを分かりやすく伝える ・各避難所に部屋を作る。市内の作業所をそのまま避難所として登録し支援の対象にする ・大規模な防災訓練	・少し離れた地域の社協同士で災害協定を結ぶ	・各種団体がどこまでの受け入れが可能か把握する
⑥ 全てにおいて ・ボランティアの確保		・有償ボランティアの確保 ・ボランティアから予算を組み公の取り組みとして行っていくことができればいいのでは？		
⑦ 移動、町づくり ・巡回バスの位置づけ。身近なバス停がない ・バスを待つ場所がない ・公共の場のバリアフリーが必要		・バスの利用については、利用希望される方々のニーズをもう少しきめ細かく聞いて、使い勝手の良いルート、時間、バス停などの設定を見直す ・スーパーやお店などと協力し、バス停を増やす。買物利用客も増え、バスの本数も増やせる？！ ・バス停の近くに(歩道が無理なら)待つ場所をつくる(市民から有償で借りる) ・バス停を考え直す。コミュニティが広がる場所や、安全な場所、利用しやすいように喫茶店の前とか ・バス停の選定方法(利用率が向上する)		・企業と共同でバス事業、100 円バスの運営、広告で企業のアピール
⑧ 地域の支え合い ・3世代交流の様な機会ができれば…	・日頃からの声の掛け合い(地域の行事を残す努力も必要)	・学校や児童を預かる施設からの連絡を受けて生活支援を検討する(片親家庭への	・学校で行う福祉実践教室をもっと増やす ・児童の見学を受け入れてくれる福祉施設	

あま市の地域福祉の課題	課題解決のためのアイデア			
	地域住民の取組み	市役所の取組み	社協の取組み	各種団体の取組み
・地域で支え合いする意識を高める方法 ・片親家庭への生活支援が必要（食事・洗濯 etc） ・ボランティアの参加者が少ない ・ボランティア育成者の養成	・地域で支え合うことの重要性 サロン・ボランティア活動への参加、住民の意識向上 ・3世代交流。子ども会行事への参加（お手伝い） ・地域の福祉事業所等、ボランティアに行ったら、あま市で利用できるポイントをもらえる ・高齢者の見守り。小中学校の授業で訪問とか？夏休みの宿題にするとか？ ・学区の割り振りを進めて子どもを増やしてもらわないと、子ども会などの運営も厳しい	支援)	の検討 ・高齢者がもっとボランティア活動がしやすい情報発信、登録方法を考える（ボランティア内容も様々） ・地域の支え合い。ジュニアリーダーの育成→地域ボランティアへの参加も踏まえた組織 ・地域の活動＝母になりがちなので、“若いお父さん”が参加しやすい活動	
⑨ 高齢者の見守りと生きがい ・単身老人の見守り（町内会ではなく） ・高齢者の見守り方法 ・高齢者の生きがいづくり ・生活への支援	・子ども達が学校の帰り道、あいさつ運動をしていく ・子どもも絡めた活動、手伝いとか ・特技のある老人の方をピックアップ。ワークショップを行ってみては	・農園開放（市が地主から借用）使用地を確保		・子ども食堂のような高齢者食堂をやってみては？
⑩情報提供、情報共有 ・福祉という言葉にどんな意味があるのか？ ・子育て、介護の初心者への情報の提供方法 ・行政と個人の情報共有の認識の差 ・あま市では、資料作りに力を入れて福祉に心がないのではないか		・障がい者に対しての情報は、色々な手続きの案内と一緒に郵送してもらえると情報共有できるのでは？ ・子育て、介護へのメールで情報配信（LINEも） ・広報をメール配信（子ども、大人の健診情報なども） ・市としての活動報告（結果報告）してほしい ・あま市の取り組みをメディアを通してアピール→広く知れわたる	・情報提供 SNSをうまく利用する方法を行政で考えてほしい	
⑪ 民間の活用 ・あま市の福祉って大きな社会福祉法人もない。社協→民間の力をもっと活用して				

【Dグループ】



あま市の地域福祉の課題	課題解決のためのアイデア			
	地域住民の取り組み	市役所の取り組み	社協の取り組み	各種団体の取り組み
① 障がい ・障がい者との接し方 ・障がい者(重度の人)でも一人で暮らせる社会資源 ・安心して暮らせる町づくり	・全世帯の町内会への参加。どこに障がいのある人がいるか→支援しようがない ・まず障がい者が地域デビューする(本人の意志重要) ・民生委員の活動強化 ・障がい者の状態を理解する ・常日頃、町内で実施するコミュニティーに参加する様に迎えに行く	・障がいの状態を視覚的にわかるようにする ・障がい者への支援制度の充実。タクシー券等	・状況の把握とそれに対する対応の充実	・障がい者を活動に組み込む。サクサク盛り上げ隊
② 地域の連なり ・全体的に希薄になっている事 ・町内会を退会する世帯が多い ・町内行事への参加が少ない	・回覧板等で(絶えず)意識の徹底をする ・町内会への全世帯参加 ・各種イベントの内容を検討する(興味) ・とにかく地域住民に声かけする ・町内の挨拶運動実施(隣に誰が住んでいるか分からない) ・何をしているかを明白にしてほしい。親を見ていても、子供は何をしているかよく分からない	・全世帯の町内会参加への推進、行事の実施とその補助		・老人会、婦人会への参加推進
③ 災害 ・空家、廃屋が災害時危険 ・防災訓練に参加したがない ・巨大地震は来ないと思っている人が多い ・避難場所が分からない ・災害時の救出対策(仕組、ルール)	・ご近所さんに呼びかけをしていただいて訓練に参加を促す	・危険家屋チェックし、所有者に解体か修繕指示 ・避難通路の点検をして修理及び見直しをする ・堤防の草刈りを年に数回行う ・避難場所をもっと広報する ・救出対策のモデルを市で作成	・防災訓練をしていたから良かったという事が分かるような意見を聞いて、それを資料にする(パンフレット等)	
④ インフラ ・道路がガタガタで整備されていない箇所が	・まめに道路の気になった点を区を通じて市に連絡	・歩行路のカラー舗装化により車椅子・ベビーカーを通りやすく		

あま市の地域福祉の課題	課題解決のためのアイデア			
	地域住民の取組み	市役所の取組み	社協の取組み	各種団体の取組み
多い ・歩道の整備があまりされていない		・市は道路整備依頼があったら、スケジュールを告知 ・全体的に狭い(道路) ・歩いてどこがひどいかを見て、ひどい所を報告する。特にひどい所から直す		
⑤ 情報 ・たて割り行政による施策の重複、無駄 ・防災のための名簿とプライバシーの保護 ・情報共有の不足 ・自治会・老人会・民生委員→情報共有できていない ・どこに障がい者がいるかわからない ・どこに後期高齢者がいるかわからない	・障がい者、高齢者という縛りではなく、助けの必要な人の名簿を町内会で作成、担当を決める ・町内会で情報交流会 雑談を行政を入れた場所をつくる ・障がい者や高齢者がどこに居るかわからないではなく、関心を持つ(一人一人が) ・見守りの必要な人の名簿を作成 担当を決めて定期的に見守る	・市長の指導力により、縦割り行政の改善 すぐやる課、市長直轄組織 ・行政のこななかれ主義の撤廃 ・持っている情報をデータ化する。会のリーダーの人が行った施策を書いて、カギ(パスワード)をつけたwebに書き込み合う→支援が必要な人に対するサービスの見える化		
⑥ 高齢化 ・高齢者世帯のカウントが 65 歳では若過ぎる ・高齢化→ニーズの高い外出支援サービスが使えない。手助け ・一人暮らしの高齢者の見守り及び安否確認 ・高齢化の次にコミュニティの人員不足がくる ・認知症老人の見守り及び接し方 ・世代間の交流と理解不足		・毎日使うような湯沸しポットにデータを送る機能が付いてるので、高齢者の家に設置して、使うと市役所にデータを送信され、生存しているかを確認(3日来なかったら見に行く)	・保育園、デイサービスなど、利用している人達の交流会を実施する ・ふれあいサロンの充実及び拡大、募集、援助(補助金を) ・ふれあいサロンでPCの講習会をやる ・近所の人と生きがいづくりを考え、高齢化にならないように→防災センター等の活用→地域の集まる場に	
⑦ 子育て ・子宮頸ガンワクチンはいつ再開するか ・子育てにお金かかりすぎ ・対処療法への偏り ・婚姻継続率 up ・あま市民病院に産婦人科がない		・あま市民病院に産婦人科を設置して、出産費用を市民は無料にする		
⑧ 協調支援 (ちょっとした手助け・ボランティア等)	・買物時に声を掛け合う ・スーパーで買物をした時に、届けるサービ	・買物難民を救済する仕組みを、市が民間と協業する		

あま市の地域福祉の課題	課題解決のためのアイデア			
	地域住民の取り組み	市役所の取り組み	社協の取り組み	各種団体の取り組み
・地域での助け合える人づくり ・情報社会すぎて困る ・人材活用(ボランティア等) ・時代の変化に応じた対応 ・便利な仕組みを知らない(例)買い物(ネットスーパー・宅配) ・災害時はまず自助だけど、子育て・介護は責任重すぎ	スミたいな仕組みをつくる	・行政の中に危険課の設置。身動きがすぐできる課、地域住民の意見をすぐ聞く課(すぐやる課) ・市に、手助けをするボランティアを登録しておく。手助けを必要とする時、市に依頼		

